



# 農業委員会だより

■発行人 飯山市農業委員長 松永晋一  
■編集 飯山市農業委員会 情報委員会

飯山市  
農業委員会事務局  
飯山市役所農林課内  
電話：62-3111  
(内線261)  
FAX：62-6221

18.5

No.230

がんばっています！  
— No. 40 —



右：岡田忠治さん(木島地区)  
左：妻の早苗さん

## 農業ばんざい

4年前に生まれ故郷である飯山に妻と2人で戻って来ました。高校卒業後、父から「東京行って勉強して来い」と言われ、37年間も勉強してしまつた次第です(笑)。

3年前から本格的に農業を始め、主にケールを栽培しています。

東京ではアパレル業界で外資系企業や海外勤務もしていました。

飯山に来てからは、「やりたい仕事に出会うまで家の前で野菜でも作ってみるか」と畑に出ました。近所の方々に教えていただいたり、本や

ネットで調べながら30種類ほど栽培し、野菜作りの楽しさにはまりました。

本格的に就農を決めてからは、市場調査や農産物の動向などを調べ、その中でもケールは将来性の高い野菜だと感じました。ケールとの出会いは、15年前にブラジルレストランで炒め物を食べたケールの美味しさを知りました。量販店に売っておらず、健康志向が高まっている時代だからい

る！と確信しました。昨年より知名度も高くなり、販売量も増えてきています。栽培も農業用語も知らないままたくの素人でしたが、物を作り売る分野では37年の経験が活かされたわけです。妻も雑貨業

界でマーケティングをしていたこともあり、物を農産物に置き換え考えれば抵抗なく入り込めました。

栽培技術は、普及センター、JAの方々、地域の農家さんより教授していただき、なんとか売れる作物が出来るようになりました。今もたくさんの方々に助けていただき感謝しています。

野菜はその年によって生育が異なり、自然相手である農業の厳しさを日々痛感しています。近所の農家さんたちが「毎年1年生だよ」と言われるのが最近理解できるようになりました。

昨年7月の大雨で3千株のケールが水没してしまい、その畑はほぼ出荷出来ずに終わってしまいました。リスクを想定し複数の畑で栽培していたので、無事収穫することができ売上も落とさず事なきを得ました。このリスク回避も前職業の経験が活かされました。農業は大変、儲からない、とよく言われていますが、物を作ったら売るといふ基本的

## 農業委員会研修視察報告

耕作放棄地の増加および後継者不足や担い手不足は、現在多くの農村が抱えている深刻な問題であり、飯山市でも農業者の減少や高齢化が課題となっています。また、平成30年度から始まった新たな米政策にも不透明さを感じ、今後の米作りに不安を抱えています。

これらの課題を踏まえ、農業委員会では活力ある農村に向けて、若者の就業支援対策、アスパラガス振興対策、耕作放棄地対策の研修視察を行いました。



初めに、17年前に福井県若狭町・地元企業・住民が出資して設立した、かみなか農業舎は、都市の20歳代から30歳代の若者を募集し、2年間の農業研修を修了した後、町内での就農・定住を促進し、集落を活性化することを大きな目的としています。

研修中は、施設内で共同生活をし、集落の一員となるよう農村での暮らし・歴史・文化や地元の方との交流を深めることも研修の二環としています。町内就農に向けた取り組みとして、1年目には地元の認定農業者との交流などを行い、2年目には希望する農地・機械・住宅について、県・町・かみなか農業舎職員と面談を行い、卒業後はスムーズに集落へ溶け込めるように準備を進めていきます。

研修を修了した25名が町内就農し、子供を含め60名を超える方が定住に結びついているとのことでした。



面積は全体で0.8畝、出荷時期は3月から10月、施肥は月1回、冠水は1日2回、病虫害防除は降雨が当たらないのでほとんど行わず、病虫害の発生時のみ防除することとした。



スを取り入れました。平成19年度より栽培を始め、現在10名が施設栽培をしています。

飯山市でも取り組んでいる雨よけ設置による茎枯病防除の推進をJAと連携しながら強化することが、一大産地の再生につながるのではないかと考えます。



最後に、富山県立山町は、耕作放棄地対策として平成23年に立山町産そば推進協議会を設立しました。栽培農家・営農組合・町・JAアルプスが連携して、そばの振興と特産品の開発を行い、「立山町産そば」のブランド化と消費拡大を図っています。アンケートを実施し、そば料理コンテストを実施するなど更なるブランド確立に努めています。

6次産業の取り組みを参考に、市JA生産者が一体となって耕作放棄地の解消に向けた取り組みを進めていくことの必要性を改めて考えました。農業振興委員 大口今朝志

## あぜ道だより



外様地区農業委員  
服部 彰夫

### 「密苗」について

「密苗」って何ですか？と思われる方が多いと思います。場所によって言葉の違いがありますが、「高密度精密田植え」のことを言います。聞きなれない言葉ですが、これは、育苗箱1枚につき、通常150ヶ前後の播種を、この「密苗」では250ヶから300ヶ播種するというものです。

そして、田植機も若干の改良が必要ですが、ある農機具メーカーの8条田植機では、10ヶあたり7枚から8枚で植えることができるため、約30ヶの圃場では、1回で苗のせで24枚で植えてしまいます。これ

により、圃場への苗の運搬、殺虫剤の撒く量、育苗箱洗いの省力化ができます。

私の地域の法人組織では、3年前から試験的に導入し、今では6ヶほどの面積になっています。収穫量も通常の田植えとほぼ変わらないため、高齢化・後継者不足といった地域農業の現状を考えると、この「密苗」が急速に普及していくのではないかと考えられます。しかし、今までの様に育苗での失敗はできないというリスクはあるので注意が必要です。

## あしあと 3・4月の活動記録

- 3月7日 そば打ち体験
- 9日 農地相談
- 〃 農業委員会役員会
- 〃 農業委員候補者評価委員会
- 28日 3月農業委員会総会
- 4月10日 農業委員会役員会
- 11日～13日 管外研修視察
- 24日 4月農業委員会総会・学習会